

ひびき

令和7年12月15日(月)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
3年 学年便り 冬休み・1月号

“響力”するひびきの子ども

11月27日～28日にかけて、子どもが不安と期待を胸に抱いて臨んだ焼津宿泊体験学習が行われました。高草山ハイキングでは途中雨に降られもしましたが、登りの道中で見える美しい焼津の街並みに「ここでしか見られない景色だ」「ゴール(頂上)までいったら完璧な景色になる」などと心を踊らせながら登り切りました。焼津青少年の家では、「自分のことは自分で」「来たときよりも美しく」という生活のルールを意識し、一つ一つの活動に取り組みました。布団の準備を仲間と助け合い、



朝の掃除を時間いっぱいまで精一杯行うなど、自立に向けた一歩を踏み出す姿が見られました。また、宝探しやウォークラリーでは、数字やチェックポイントの文字を探しながら道に迷いそうになったとき、班のメンバーと相談したり、班を超えて助け合ったりする姿に感心させられました。これらはまさに、学年のめあてである「自分たちの力で 協力して ひびき合う」を体現する行動でした。ひびきの子どもがたくましく、そして自立していく姿に感動を覚えました。

素敵な1泊2日を過ごしたひびきの子どもは、さっそく月曜日に、それぞれの学級でふり返り、次のような言葉が出ていました。

「焼青ビンゴ(宝探し)で札のある場所を教え合って協力できた」
「〇〇ちゃんが疲れちゃったけど、僕が“頑張って!”と励ましたから登れたと思う」
「班で協力できたから授業でも班でやるときはそういう意識ができるといいなと思う」
「ウォークラリー中に道に迷って喧嘩になったけど、仲直りしてもう一度協力してゴールもできた」
「最初は心配していたけど、班で協力できてよかった」

子どものふり返る姿を目にしたときに、一人ひとりが“協力しよう”と考え行動したことが、仲間へと“響き合い”、班、学級、学年での大きな“協力”につながったのだらうなと感じました。

“ひびき合う”ことが学年の目標でもあった焼津宿泊体験学習ですが、そこでは“協力”が互いに影響し合い、響き合うことで“響力(きょうりょく)”というものになったのではないかと思います。ひびきの子どもは、“響き合う”ことをとても大切にしていると日々の姿から感じます。

だからこそ、“協力すること”が広がって互いに影響し合ったことで、“響力”となったのだと思います。焼津宿泊体験学習を終えた12月の生活の中でも、そこで感じたこと得たものを生かそうとし、また“響かせ合う”姿をたくさん目にするのができ、とても嬉しく感じる毎日です。冬休みを終えると、3年生もあと少しです。残り少ない期間も一人ひとりが響かせようとする思いを支えながら、“集団”としてのひびきの子どもの成長を願いかかわっていかうと思います。1月からも子どもが元気にそして思いっきり学校生活を送れるように、冬休みは心身ともに健康に過ごせるようにしていただけると幸いです。1月からも温かい協力をよろしくお願いします。

